

# 「1日未満で完了する作業の積算」 の手引き（案）

平成 29 年 10 月

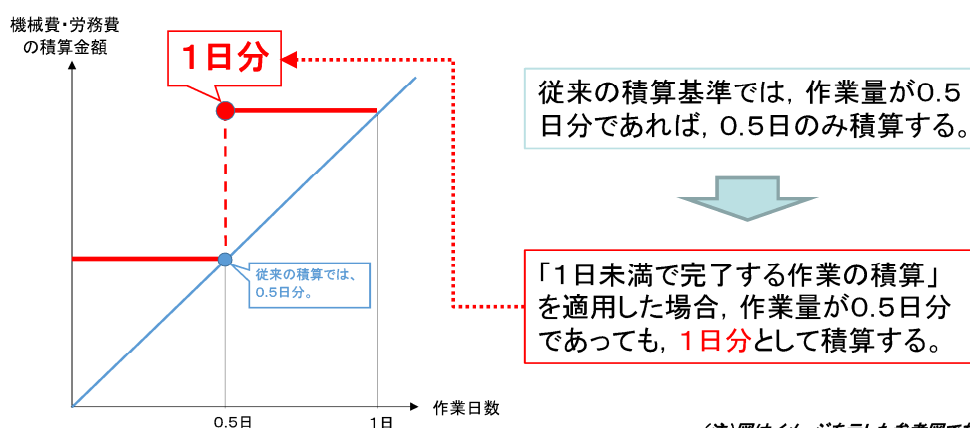
兵庫県 県土整備部

## はじめに

本手引きは、兵庫県県土整備部土木工事標準積算基準書（共通編）「1日未満で完了する作業の積算」（以下、「基準」と言う。）に関する受発注者間の協議が円滑に行われることを目的に作成したものであり、基準の内容をわかりやすく説明するとともに、協議に当たっての発注者の考え方を示したものである。

## 「1日未満で完了する作業の積算」とは

賃金や、賃料の支払い方法としては、やむを得ず、1日に2時間だけの労働や賃貸であっても、半日分（もしくは1日分）の賃金や、賃料の請求や支払いが行われているという実態がある。一方で、従来の発注者の積算基準においては、2時間だけの場合には、2時間相当分しか積算しない場合がある。このような場合、実際の費用と発注者の積算に乖離が生じる場合があり、それを解消するために、本基準が設定されたものである。



（注）図はイメージを示した参考図である。

## 目次

1	適用条件.....	1
2	適用範囲.....	2
3	適用フロー .....	3
3-1	全体フロー .....	3
3-2	判定フロー .....	4
4	判定方法.....	5
4-1	施工パッケージが1つ，かつ条件区分が1つの場合の判定方法 .....	5
4-2	複数の施工パッケージもしくは条件区分を一連の作業として判定する場合 の判定方法.....	6
4-3	判定に使用する作業量の考え方 .....	7
4-4	一連の作業の例 .....	10
5	積算方法.....	14
5-1	施工パッケージが1つ，かつ条件区分が1つの場合の積算方法 .....	14
5-2	複数の施工パッケージもしくは条件区分を一連の作業として判定する場合 の積算方法.....	15
5-3	端数処理.....	17
6	参考.....	18
6-1	対象の施工パッケージ .....	18

※対象の施工パッケージについては、設計書に記載の単価適用年月日時点における最新の土木工事標準積算基準書の内容を確認すること。

---

## 1 適用条件

本基準は、変更積算にのみ適用する。

施工実施にあたり、1日未満で完了する作業量の作業が見込まれ、施工パッケージ型積算基準と乖離が認められる場合に本基準を用いて積算するものとする。

本基準の採用にあたっては、契約期間内に受注者から当該積算の適用についての請求があった場合に、受発注者間の協議において、作業内容が当該積算基準に該当すると認められる場合に適用する。

同一作業員の作業が他工種・細別の作業と組合せて1日作業となる場合には、当該積算は適用しない。

### 【解説】

適用条件として、まず、本基準が変更積算にのみ適用されることを記載している。これは、当初に発注者の想定に基づいて積算するよりも、実際の施工に対して適用の条件を具体的に判定した方が、本基準を設定した目的をより達成できると考えたためである。

本文中に「同一作業員の作業が他工種・細別の作業と組合せて1日作業となる場合には、当該積算は適用しない。」とあるのは、1日を通して作業が行われる場合には、実際の費用と発注者の積算に乖離が生じることがないと考えられるため、そのような場合に適用しない旨を入念的に規定しているものである。

また、実際に乖離の事実が有り、その請求（ここでいう請求とは、受注者からの発議のことをいう。）をするかどうかの判断は受注者の任意であるため、受注者から変更の協議があった場合にのみ適用することを規定している。

## 2 適用範囲

1日未満で完了する作業の積算は、 <u>表に記載の施工パッケージを使用して積算する工事に限って適用</u> するものとする。
--

### 【解説】

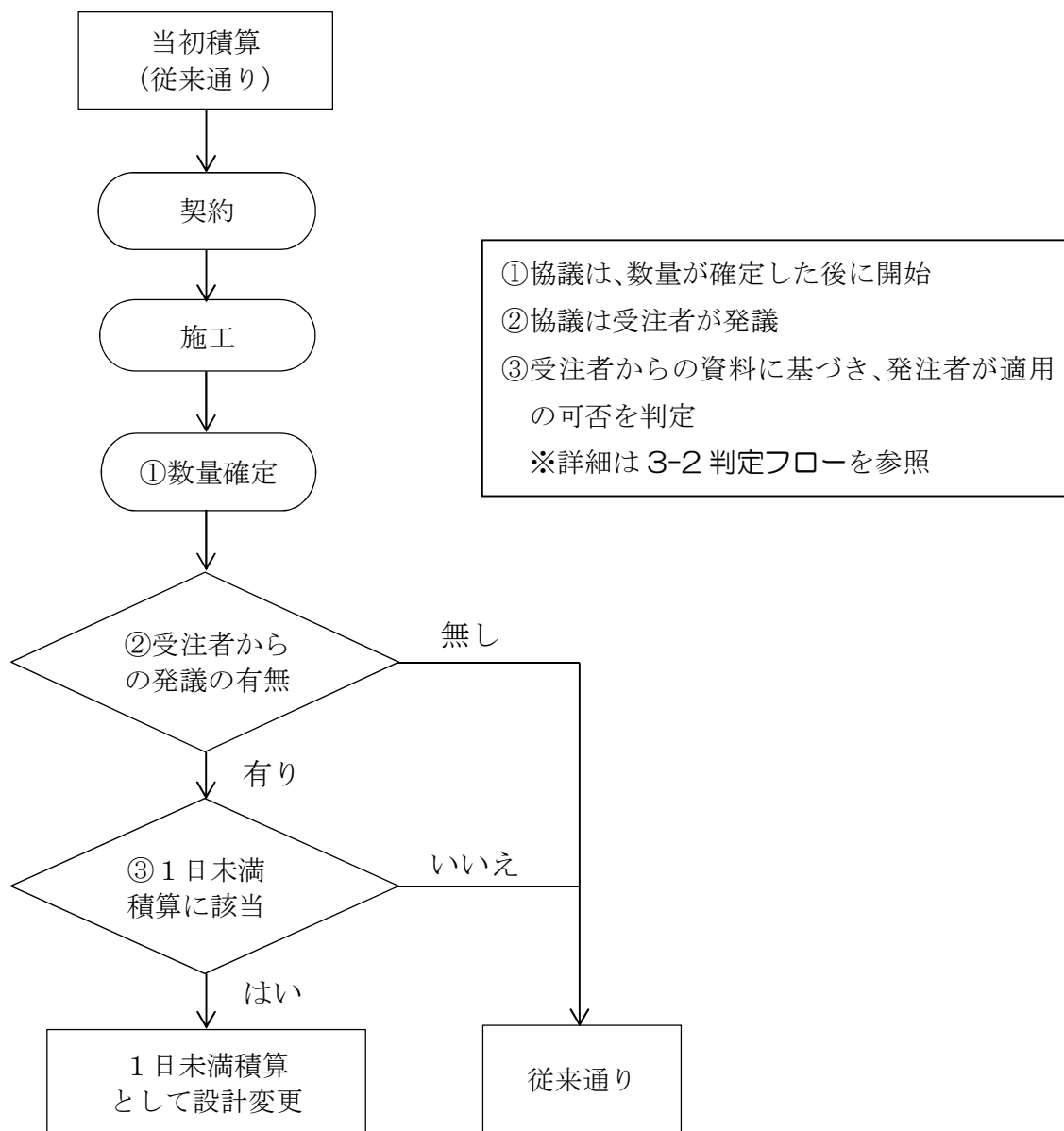
本基準が適用されるのは、基準本文の表に記載の施工パッケージに限定されていることに注意する。

「表に記載の施工パッケージを使用して積算する工事」とは、発注者の積算において当該施工パッケージを使用する工事を指している。それぞれの施工パッケージが使用されるかどうかは、作業内容が、それぞれの施工パッケージの積算基準における適用範囲、条件区分に合致しているかどうかで判断される。作業内容が類似していても、施工パッケージ積算基準で積算されない場合には、本基準は適用されない。

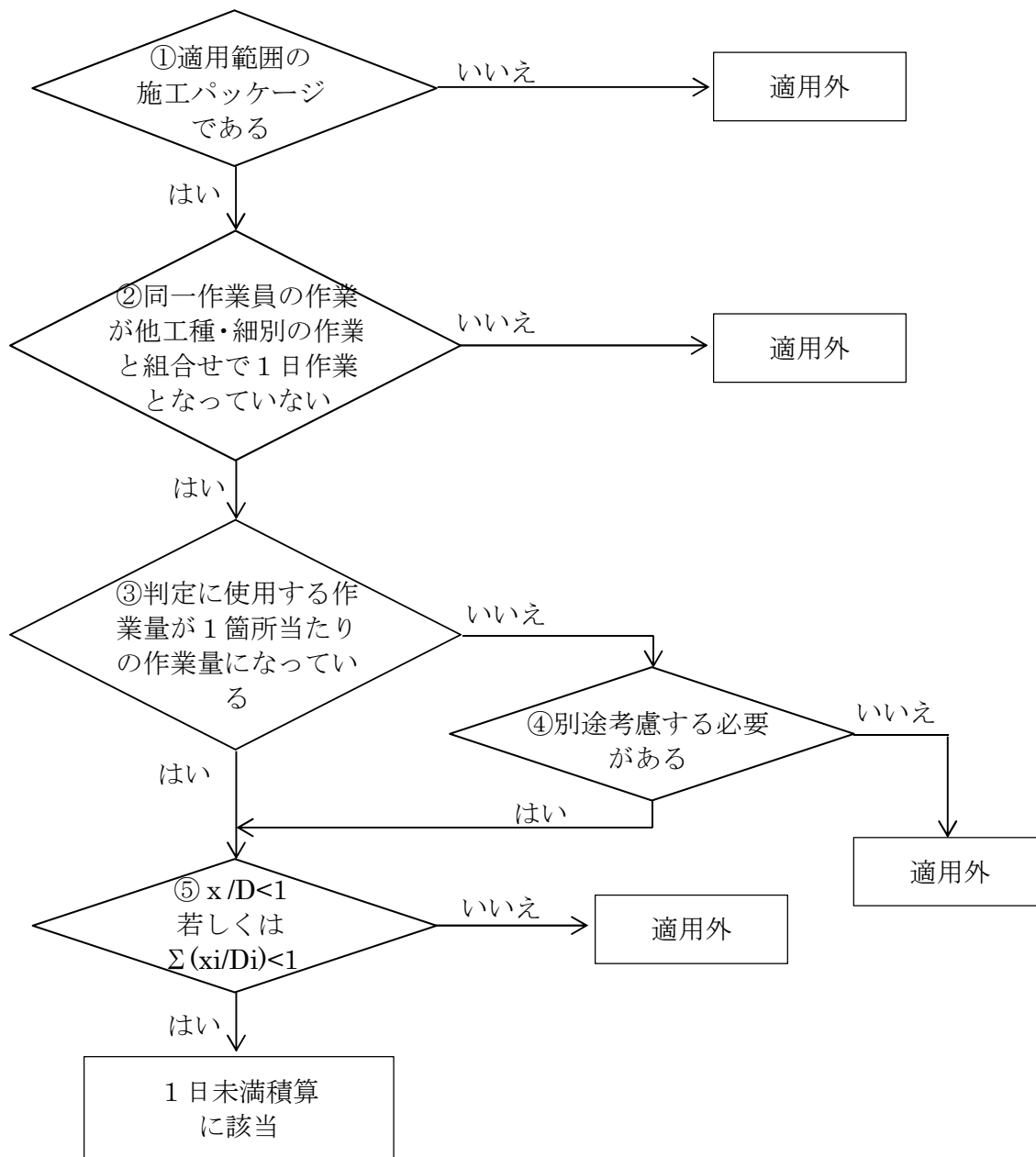
受注者から本基準の適用の協議を発議があった場合は、まず、作業内容が適用範囲に入っているかどうかを確認することが必要である。

### 3 適用フロー

#### 3-1 全体フロー



## 3-2 判定フロー



- ①適用できる工種は限定されているため要確認
- ②受注者から日報等の作業記録の提出を受け、1日作業となっていないことを確認
- ③「施工箇所が点在する工事の積算方法」が適用される場合は、点在箇所ごとに判断  
それ以外は工事全体で判断
- ④日々の作業量が受注者の責によらず制約される場合等、別途考慮する必要がある場合のみ  
個別に判断
- ⑤判定方法の詳細は次頁以降を参照

## 4 判定方法

### 4-1 施工パッケージが1つ、かつ条件区分が1つの場合の判定方法

$x/D < 1$  の場合に1日未満で完了する作業とする。

x：作業量

D：作業日当り標準作業量

#### 【解説】

施工パッケージが1つ、かつ条件区分が1つとは、下記の2つの両方に該当する場合を言う。

① 1 施工箇所の中に、一連の作業<sup>(注1)</sup>として判定する他の施工パッケージが無い。

② 当該施工パッケージにおいて、1 施工箇所の中に異なる条件区分が無い。

例えば、1 施工箇所に、法面整形（基準本文「2. 適用範囲」の摘要欄に一連の作業として判定する他の施工パッケージの記載が無い。）が有り、該当する条件区分が1つしか無い場合がこの場合に該当する。

なお、作業量 x は、最終的な設計数量（確定した数量）とし、作業日当り標準作業量 D は、積算基準書に記載の値とする。

（注1） 「4-2 複数の施工パッケージもしくは条件区分を一連の作業として判定する場合の判定方法」，「4-3 判定に使用する作業量の考え方」を参照。

#### 【判定例】

施工パッケージ	条件区分	単位	作業量	作業日当り標準作業量
法面整形	整形箇所：切土部 現場制約の有無：無し 土質：軟岩 I	m <sup>2</sup>	x=30	D=120

$$x/D = 30/120 = 0.25 < 1$$

従って、この場合は、 $x/D < 1$  なので、1日未満で完了する作業の積算を適用。



## 4-2 複数の施工パッケージもしくは条件区分を一連の作業として判定する場合の判定方法

$\Sigma (x_i/D_i) < 1$  の場合に1日未満で完了する作業とする。

$x_i$ ：各施工パッケージにおける各条件区分の作業量

$D_i$ ：各施工パッケージにおける各条件区分の作業日当り標準作業量

### 【解説】

複数の施工パッケージもしくは条件区分を一連の作業として判定する場合とは、下記の2つのいずれか、もしくは両方に該当する場合を言う。

① 1 施工箇所の中に、一連の作業として判定する他の施工パッケージが有る（注1）。

② 施工パッケージにおいて、1 施工箇所の中に異なる条件区分が有る（注1）。

例えば、ヒューム管（B形管）とプレキャスト集水桝（基準本文「2. 適用範囲」の摘要欄に一連の作業として判定する旨の記載がある。）が有る場合や、ヒューム管（B形管）においては該当する条件区分が2つ有る場合がこの場合に該当する。

$\Sigma (x_i/D_i)$  は、一連の作業として判定する各施工パッケージの作業日数（ $x/D$ ）をそれぞれ計算し、それらを合計する。

なお、作業量  $x_i$  は、最終的な設計数量（確定した数量）とし、作業日当り標準作業量  $D_i$  は、積算基準書に記載の値とする。

（注1） 「4-3 判定に使用する作業量の考え方」を参照。

### 【判定例】

施工パッケージ	条件区分	単位	作業量	作業日当り標準作業量
ヒューム管 (B型管)	作業区分：据付 管径：200mm 固定基礎：90° 巻き 基礎碎石：有り 規格：外圧管1種 生コンクリート規格：18-8-40（高炉）	m	$x_1=4$	$D_1=8$
ヒューム管 (B型管)	作業区分：据付 管径：300mm 固定基礎：90° 巻き 基礎碎石：有り 規格：外圧管1種 生コンクリート規格：18-8-40（高炉）	m	$x_2=2$	$D_2=8$
プレキャスト 集水桝	作業区分：据付 製品質量：80kg 以上 400kg 以下 基礎碎石の有無：有り	基	$x_3=1$	$D_3=22$

$$\Sigma (x_i/D_i) = x_1/D_1 + x_2/D_2 + x_3/D_3 = 4/8 + 2/8 + 1/22 \approx 0.80 < 1$$

従って、この場合は、 $\Sigma (x_i/D_i) < 1$  なので、1日未満で完了する作業の積算を適用する。

### 4-3 判定に使用する作業量の考え方

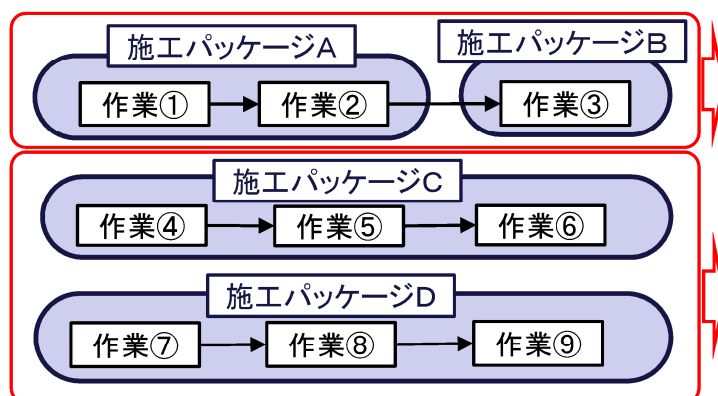
判定に使用する作業量は、施工パッケージ毎の作業量とする。ただし、表の摘要欄に、関連する施工パッケージを一連の作業として判定する旨の記載があるものについては、摘要欄の記載によるものとする。

#### 【解説】

この規定は、複数の施工パッケージがある場合の考え方を示している。

施工パッケージに含まれる作業の内容には、様々なパターンがあるが、原則は各施工パッケージの間に関連性が無く、独立した作業であるものとして判定する。

ただし、それぞれの施工パッケージが前・後作業の関係であったり、類似の作業であるため同一パーティーで作業が可能である場合もある。そうした場合には、それらの関連する施工パッケージの合計で1日未満かどうかを判定する。本文では、こうした場合を総称して「一連の作業」と記載している。



施工パッケージAとBは、原則は別々に判定するが、摘要欄に一連の作業として判定する旨の記載がある場合は、AとBの合計で判定する。

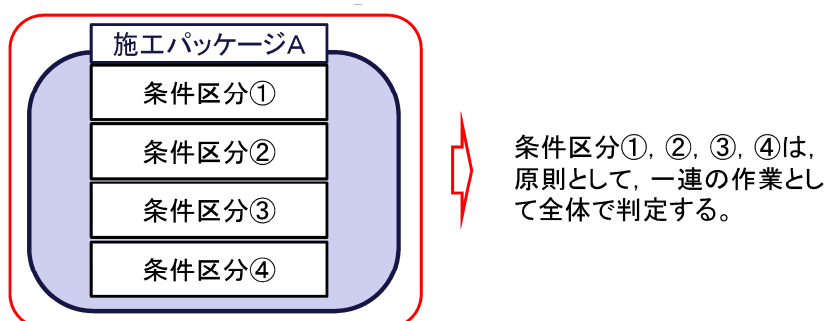
施工パッケージCとDは、原則は別々に判定するが、摘要欄に一連の作業として判定する旨の記載がある場合は、CとDの合計で判定する。

一つの施工パッケージで異なる条件区分の作業量がある場合には、一連の作業として判定する。

【解説】

この規定は、個々の施工パッケージにおいて、複数の条件区分がある場合の考え方を示している。

個々の施工パッケージの条件区分には、様々なパターンがあるが、作業内容は同じで規格だけが違うなど、一つの施工パッケージに含まれる作業は同一パーティーで作業が可能であると想定し、原則として、各条件区分の合計で1日未満かどうかを判定する。本文では、こうした場合を総称して「一連の作業」と記載している。

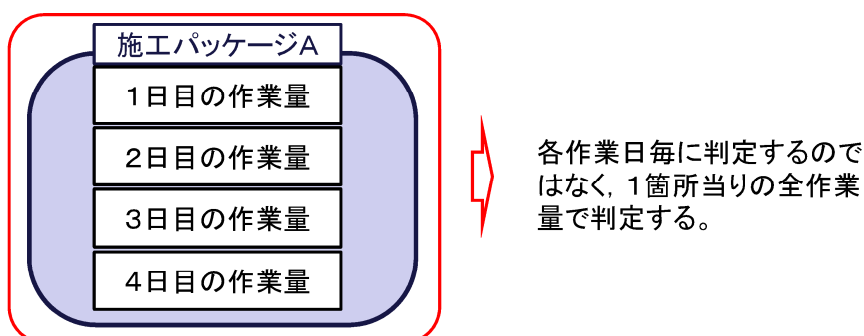


判定に使用する作業量は、1箇所当りの作業量とする。

【解説】

この規定は、原則として、作業日毎の数量を考慮せずに、1箇所当りの全作業量に基づき判定するという考え方を示している。

例えば、連続して作業した場合に、2日分相当の作業量（作業日当り標準作業量の2倍）だった場合に、受注者の都合で半日ずつ4日間で作業を行ったとしても、作業日毎に1日未満の積算が適用されるわけではない。

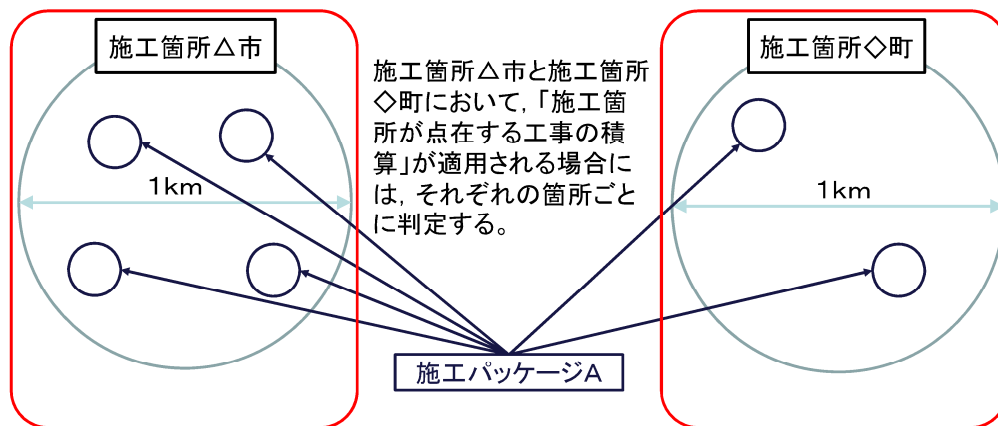


- 施工箇所の点在範囲が1 km 程度を超えるなど、同一施工箇所として取り扱いえないと判断する場合には、別箇所として扱うものとする。
- 上記以外は、1 工事の全作業量を1 箇所当りの作業量とする。

【解説】

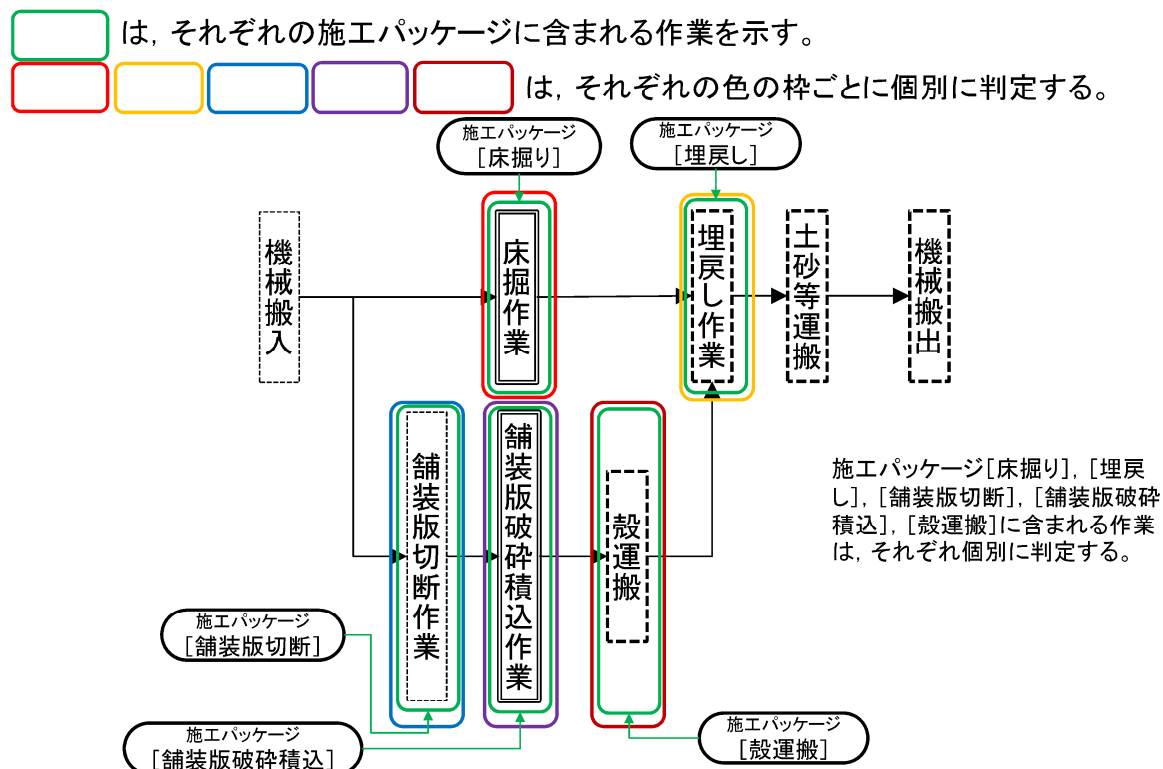
これらの規定は、1 箇所当りの範囲の考え方を示している。

原則として、1 工事の全作業量で判定する。ただし、「施工箇所が点在する工事の積算方法」が適用される場合には、例外的に別箇所として判定する。



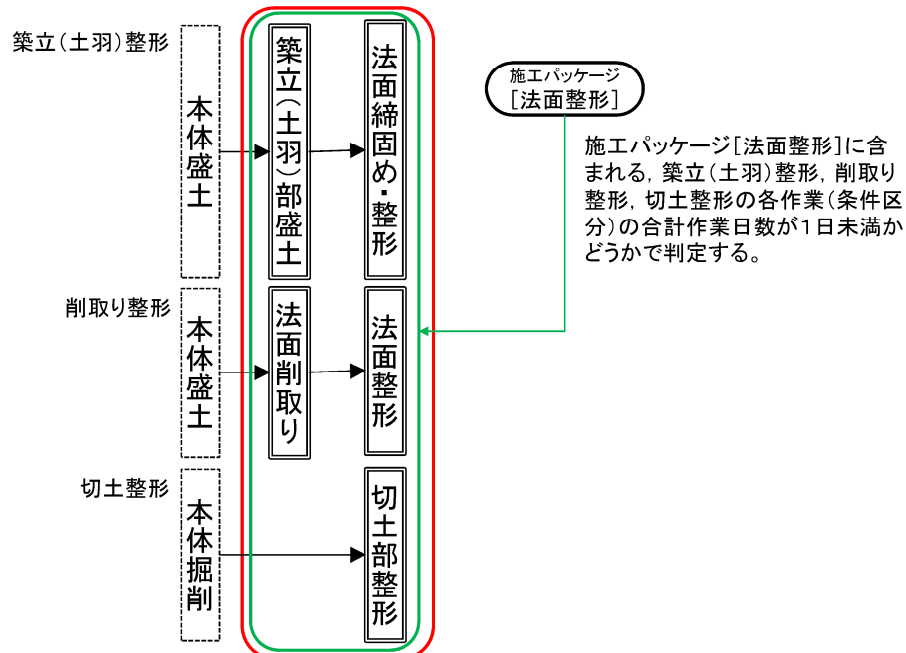
## 4-4 一連の作業の例

(1) 施工フローでは前後の作業であっても、それぞれのパッケージ毎に判定する例



(2) 一つの施工パッケージに含まれる異なる作業（条件区分）を一連の作業として判定する例

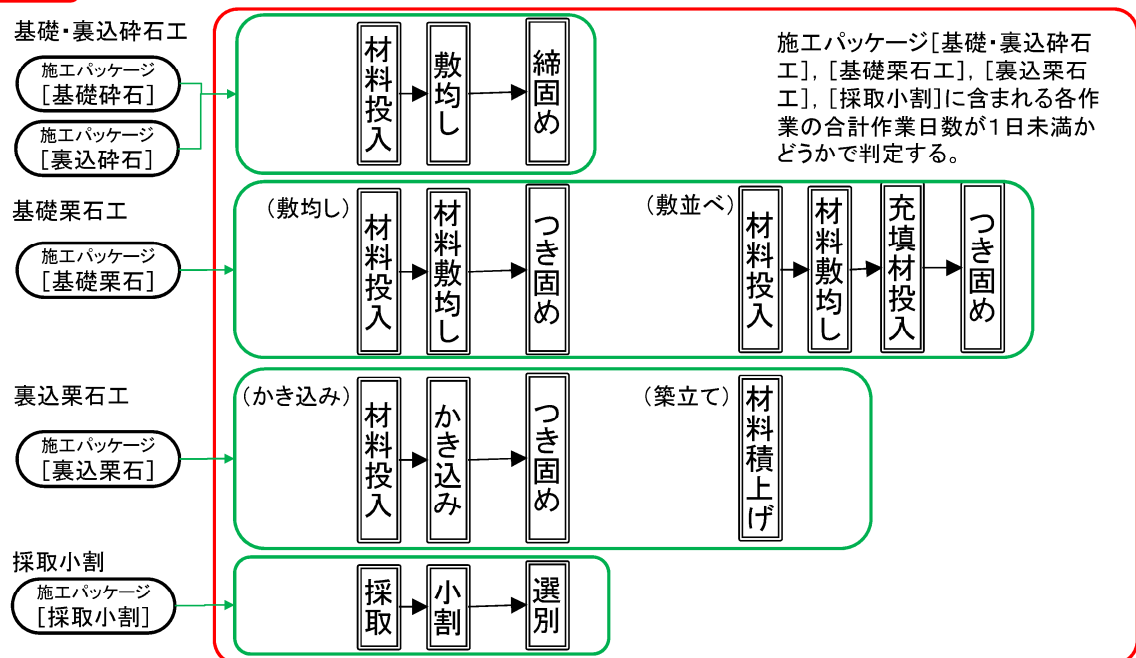
は、施工パッケージ[法面整形]に含まれる作業(条件区分)を示す。  
 は、一連の作業として判定する範囲を示す。



## (3) 異なる施工パッケージを一連の作業として判定する例①

   は、それぞれの施工パッケージに含まれる作業を示す。

   は、一連の作業として判定する範囲を示す。

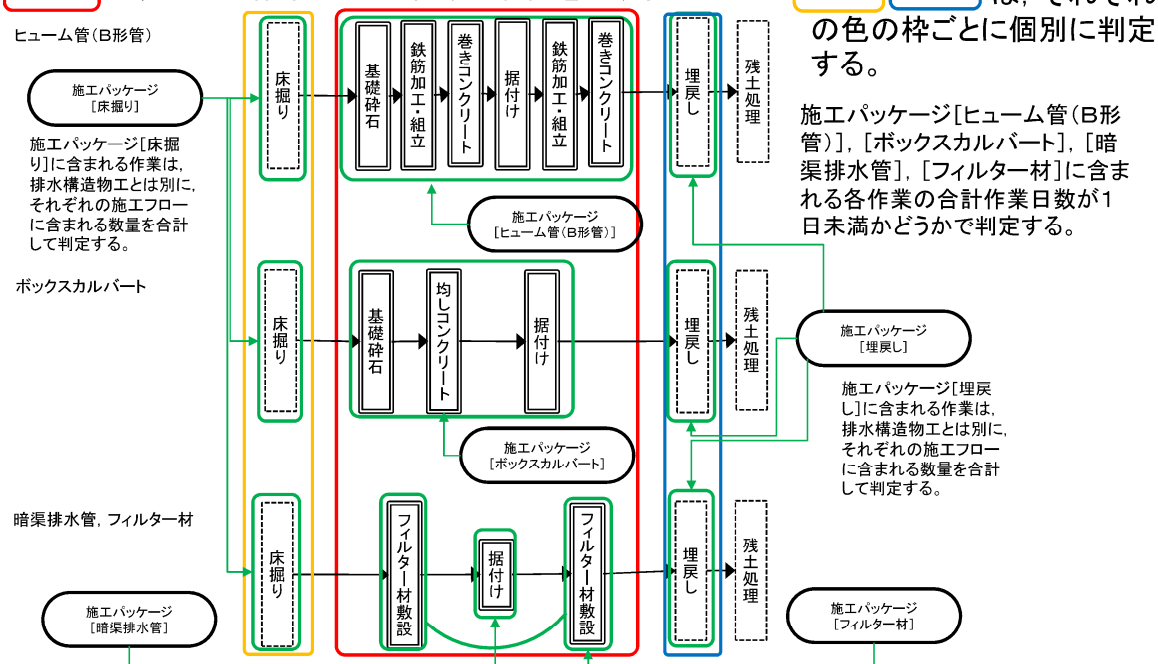


## (4) 異なる施工パッケージを一連の作業として判定する例②

   は、それぞれの施工パッケージに含まれる作業を示す。

   は、一連の作業として判定する範囲を示す。

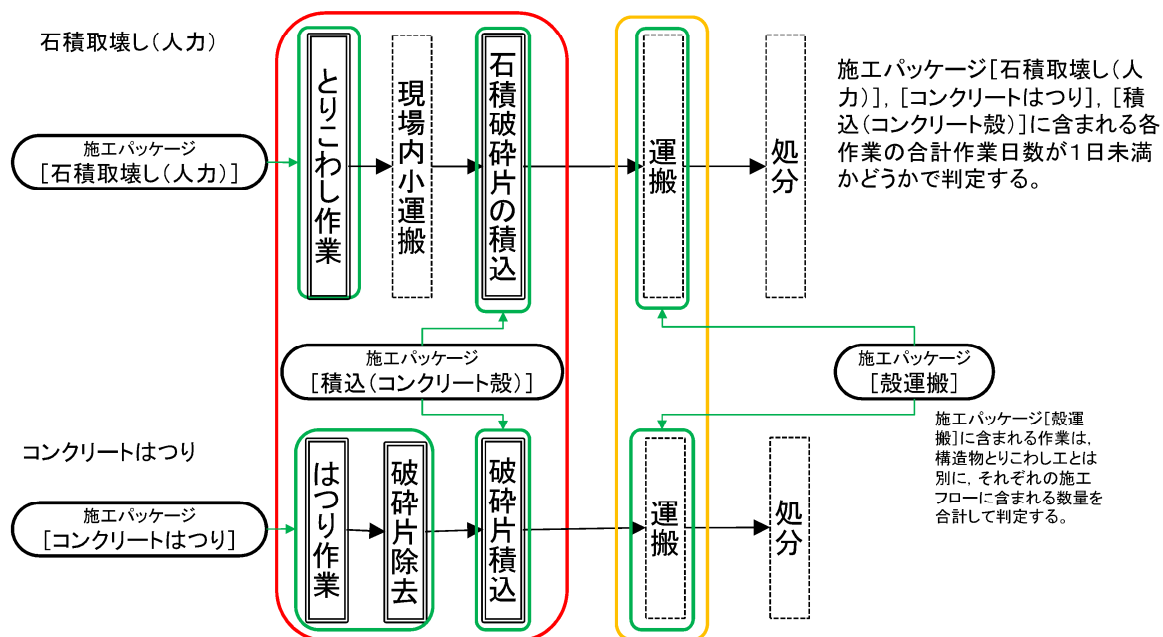
      は、それぞれの色の枠ごとに個別に判定する。



## (5) 異なる施工パッケージを一連の作業として判定する例③

   は、それぞれの施工パッケージに含まれる作業を示す。

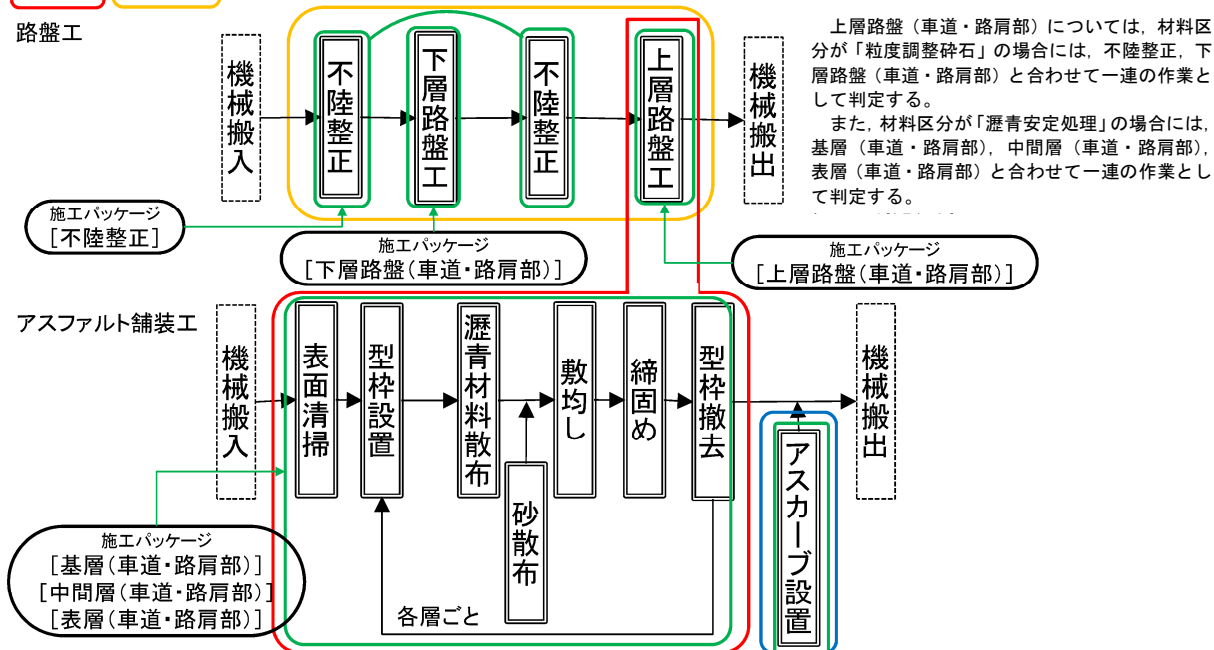
   は、一連の作業として判定する範囲を示す。    は、個別に判定する。



## (6) 異なる施工パッケージを一連の作業として判定する例④

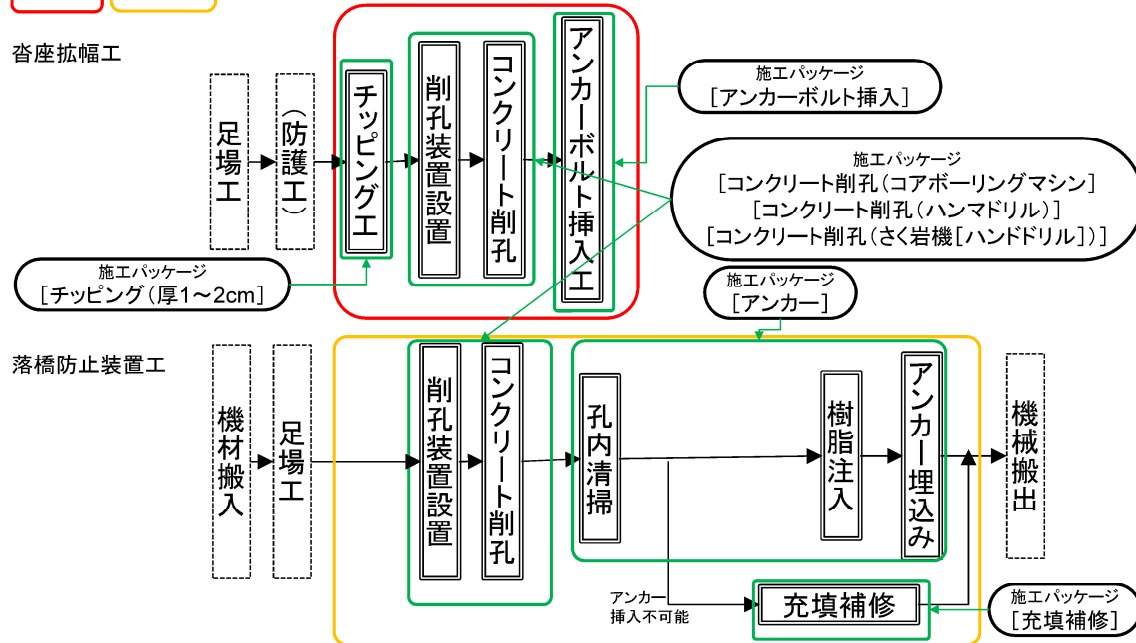
   は、それぞれの施工パッケージに含まれる作業を示す。    は、個別に判定

      は、それぞれ一連の作業として判定する範囲を示す。    する。



(7) 異なる施工パッケージを一連の作業として判定する例⑤

   は、それぞれの施工パッケージに含まれる作業を示す。  
      は、それぞれ一連の作業として判定する範囲を示す。





## 5 積算方法

### 5-1 施工パッケージが1つ、かつ条件区分が1つの場合の積算方法

#### 1) $x/D < 1/2$ の場合

機械費及び労務費は、作業量にかかわらず、作業日当り標準作業量の  $1/2$  の量を実施した場合の金額を計上する。材料費は、作業量分の金額を計上する。

#### 2) $1/2 \leq x/D < 1$ の場合

機械費及び労務費は、作業量にかかわらず、作業日当り標準作業量を実施した場合の金額を計上する。材料費は、作業量分の金額を計上する。

#### 【積算例】

■「4-1 施工パッケージが1つ、かつ条件区分が1つの場合の判定方法（P5）」の判定例の場合

施工パッケージ	条件区分	単位	作業量	作業日当り標準作業量
法面整形	整形箇所：切土部 現場制約の有無：無し 土質：軟岩 I	m <sup>2</sup>	x=30	D=120

$x/D = 0.25$  より  $x/D < 1/2$  の場合に該当

#### ①機械費及び労務費

作業日当り標準作業量の  $1/2$  ( $D/2 = 120/2 = 60$  m<sup>2</sup> 分) の金額を計上

#### ②材料費

設計数量 ( $x_1 = 30$  m<sup>2</sup> 分) の金額を計上

## 5-2 複数の施工パッケージもしくは条件区分を一連の作業として判定する場合の積算方法

$\alpha \times \sum (x_i/D_i) = 1$  となる  $\alpha$  を計算し、 $\alpha \times x_i$  をそれぞれの施工パッケージや条件区分の修正作業日当り標準作業量  $D'_i$  とする。

### 1) $\sum (x_i/D_i) < 1/2$ の場合

機械費及び労務費は、作業量にかかわらず、それぞれの施工パッケージや条件区分において、修正作業日当り標準作業量  $D'_i$  の  $1/2$  の量を実施した場合の金額を計上する。材料費は、それぞれの施工パッケージや条件区分の作業量分の金額を計上する。

### 2) $1/2 \leq \sum (x_i/D_i) < 1$ の場合

機械費及び労務費は、作業量にかかわらず、それぞれの施工パッケージや条件区分において、修正作業日当り標準作業量  $D'_i$  を実施した場合の金額を計上する。材料費は、それぞれの施工パッケージや条件区分の作業量分の金額を計上する。

### 【積算例】

- 「4-2 複数の施工パッケージもしくは条件区分を一連の作業として判定する場合の判定方法（P6）」の判定例の場合

施工パッケージ	条件区分	単位	作業量	作業日当り標準作業量
ヒューム管 (B型管)	作業区分：据付 管径：200mm 固定基礎：90° 巻き 基礎碎石：有り 規格：外圧管 1 種 生コンクリート規格：18-8-40（高炉）	m	x1=4	D1=8
ヒューム管 (B型管)	作業区分：据付 管径：300mm 固定基礎：90° 巻き 基礎碎石：有り 規格：外圧管 1 種 生コンクリート規格：18-8-40（高炉）	m	x2=2	D2=8
プレキャスト 集水桝	作業区分：据付 製品質量：80kg 以上 400kg 以下 基礎碎石の有無：有り	基	x3=1	D3=22

複数の施工パッケージもしくは条件区分を一連の作業として判定する場合において、1日未満で完了する作業の工事に該当する場合は、まず、 $\alpha \times \sum (x_i/D_i) = 1$  となる  $\alpha$  の値を計算する。

$$\alpha \times \sum (x_i/D_i) = \alpha \times (4/8 + 2/8 + 1/22) = 1$$

$$\alpha = 1.257 \cdots = 1.26 \quad (\alpha \text{ は小数第 2 位までとし、小数第 3 位を四捨五入})$$

次に、各施工パッケージ・各条件区分の『修正作業日当り標準作業量』を計算する。

ヒューム管(B形管)・管径 200mm

$$D' 1 = \alpha \times x1 = 1.26 \times 4 = 5.04 \div 5$$

ヒューム管(B形管)・管径 300mm

$$D' 2 = \alpha \times x2 = 1.26 \times 2 = 2.52 \div 3$$

プレキャスト集水桝

$$D' 3 = \alpha \times x3 = 1.26 \times 1 = 1.26 \div 1$$

(修正作業日当り標準作業量  $D' i$  は、整数とし、小数第 1 位を四捨五入とする。

ただし、作業日当り標準作業量  $D_i$  が小数である場合は、四捨五入により、同じ桁数とする)

最後に、各施工パッケージ・条件区分の機械費及び労務費、材料費をそれぞれ計算する。

$$\Sigma (x_i/D_i) = 0.80 \text{ より } 1/2 \leq \Sigma (x_i/D_i) < 1 \text{ に該当}$$

施工パッケージ	条件区分	単位	設計数量	修正作業日当り標準作業量	機械費及び労務費として計上する数量	材料費として計上する数量
ヒューム管 (B型管)	作業区分：据付 管径：200mm (以下省略)	m	x1=4	D' 1=5	5 (=D' 1)	4 (=x1)
ヒューム管 (B型管)	作業区分：据付 管径：300mm (以下省略)	m	x2=2	D' 2=3	3 (=D' 2)	2 (=x2)
プレキャスト 集水桝	作業区分：据付 製品質量：80kg 以上 400kg 以下 基礎碎石の有無：有り	基	x3=1	D' 3=1	1 (=D' 3)	1 (=x3)

### 5-3 端数処理

- 1) 作業日当り標準作業量  $D$  の  $1/2$  の量は、整数とし、小数第1位を四捨五入する。  
ただし、作業日当り標準作業量  $D$  が小数である場合は、四捨五入により、同じ桁数となるようにする。
- 2)  $\alpha$  は、小数第2位までとし、小数第3位を四捨五入する。
- 3) 修正作業日当り標準作業量  $D'_i$  は、整数とし、小数第1位を四捨五入する。ただし、各施工パッケージにおける各条件区分の作業日当り標準作業量  $D_i$  が小数である場合は、四捨五入により、同じ桁数となるようにする。
- 4)  $D'_i$  の  $1/2$  の量は、 $D'_i$  を計算した上で、1) と同様とする。

#### 【解説】

- 1) は「施工パッケージが1つ、かつ条件区分が1つの場合」の考え方を示している。
- 2) ～ 4) は、「複数の施工パッケージもしくは条件区分を一連の作業として判定する場合」の考え方を示している。
- 4) に記載されているとおり、 $D'_i$  の  $1/2$  の量の計算をする場合には、まず3) により  $D'_i$  を計算し、丸め処理を行い、 $D'_i$  の値を確定させる。